

2. 同門会ご挨拶



医 師 会

産業医科大学第2内科同門会 会長
北九州市立八幡病院 副院長
太 崎 博 美



この写真は、今年の北九州市医師会の京都旅行のナップです。おじさん総勢14人で、一泊二日(土曜の午後から日曜日)の研修旅行です。京都の夜の宴会は、舞妓さん、芸妓さん、地方さんの組み合わせで、夕食の宴でした。京都言葉と北九州弁のやりとりで、初めての世界を覗き見た夜でした。医師会はお酒が強くないと勤まらないと言われますが、実際には全く飲めない先生も理事をされていますし、宴会がいつもあるわけではなく、自由参加です。確かに、素面での会議も大切ですが、会長やその他の重鎮に向かってお酒の力を借りて好きな事が言えるのは、宴会の良い点と思います。結局仲良くなったもの同士で、夕食を兼ねてお酒を飲みながら賑やかに議論する=二次会という事と思います。医師会は、開業医の先生達の会という認識は、確かに医師会の一つの面を表しています。でもそれだけでない、若い勤務医の先生方にも大きく関わった活動をたくさんしています。今回は、その紹介を兼ねて医師会のことを皆で考えて頂ければと思います。

私が、大学在籍中までの関わりは、医師会の懸賞論文に応募した時ぐらいしかありませんでした。医師会を本当に知るようになったのは、大学を離れて現在の市立病院に移ってからです。しかも自分で積極的に医師会に仕事を求めたのではなく、任期途中で空席になった市医師会の監事の職に就いたのがきっかけでした。監事ですから“偶に用事があるくらいかな?”とっていたのですが、市医師会では、

必ずすべての理事会（水曜日3回／月・小倉で開催）へ出席が求められます。その後、監事の任期が終わると思いきや現在の勤務医枠の副会長になってしまいました。副会長は、開業医代表と勤務医代表に分かれています。現在、全国の医師の半数以上が勤務医になっています。医師会では、開業医は多くの方が会員ですが、勤務医は病院の幹部以外は参加が少ないのが現状です。この未加入の理由の最大のものは、医師会の会費です。特に給与の不高くない若い世代や出費の多い子育てを必要とする世代には、意味もない過酷な出費に思えると思います。現在、研修医の無料化など勤務医に対する経費の減免に取り組んでいます。出来れば現在の半額程度まで安くなればと思っています。

では、年数万円の出費に見合う医師会の価値はあるのでしょうか？どうなったら勤務医の先生方に加入して頂ける魅力的な医師会になれるのでしょうか？これは、医師会発足とともにずっと語られ、議論され、無力感にさいなまれてきたテーマです。実は、近年、勤務医の若い先生方に直接に関係することが“働き方改革”や“ワークシェアリング”“男女参画”など大きな問題となってきました。行政や立法機関に対して、医師全体（特に勤務医）の意見を言える圧力団体としての魅力が医師会にはあります。医師ひとり一人は大変忙しく、このような政治向きの問題には無力ですが、医師会を通してなら、自分の意見を反映させることが出来ます。なかなか医師会が役立っていることは実感できませんが、例えば参議院議員として、医師会の代表として活動している方々がいらっしゃいます。

また、学術的な催しとして、年3編の論文を医師会として表彰して、お一人30万円ずつ副賞を差し上げています。昨年度は、当科の尾上武志先生が受賞されました。初期研修医が北九州市になじんで頂けるように、市長を含めた行政とのレセプションも催しています。地味ながら、若い先生達を育てる一助になっていると思います。

来年で医師会活動10年目になります。副会長職からは退きたいと考えていますが、何かをやり遂げたかという感じは全くなく、知り合いが増えたな～という感じです。やめるとほっとしそうですけれど、いつも理事会があった水曜日の夜は“すこし寂しいかな”と思うのでしょうか？



さらに遠のく明治の御代

産業医科大学第2内科同門会 名誉会長

福本 晃雄

改元の中、新紙幣の図柄が公表されました。図柄の選択は、表情豊かで髪とかひげとか複雑な顔の「文化人」の括りからだそうです。この顔ぶれに「旧幕府の人々」が思い起される方も多いことと思いますが、私もそうです。

何故なのか、思い起こしてみます。今の国の枠組みは、もとより明治政府によります。では、あの磐石の徳川幕府がなぜ消滅したのか、たどってみますと、幕府自身が選択した善政のためへの施策に行き着くようです。その最初がペリー来航時の老中阿部正弘の選択です。開明的な阿部はいち早くペリー来航の情報を公開し、江戸市民に至る迄広く対応策を募りました。これで、それまでと違ってお上に対して自分の意見を自由にももの申す「風潮」を公認したことになりました。これが民衆・諸藩に及び、將軍継嗣問題にまで口をだすに至ります。これで反対派が勢いつく中、次の老中堀田正睦は条約締結に際して、天皇に報告するに止まらず、反対派を抑えようと勅許を求める選択をして失速してしまいました。これで、これまで大政委任だった幕府政治への天皇の介入を認めたことになりました。倒幕派を活気付けるばかりでなく、「幕府が天皇に弱い」のであればと、岩倉具視など下級公家が朝廷権力を握り、天皇を隠れ蓑に政治力を発揮するに至りました。ついには偽の天皇の手紙（勅定）や、急こしらえの天皇の旗（錦の御旗）をなびかせて薩長等の倒幕軍を官軍と称し、幕府軍を賊軍と貶めました。極め付きが時の將軍慶喜の選択です。これを見た慶喜は、「たとえ幕府に背くとも、朝廷に向かいて弓ひくことあるべからず」と、早々に恭順の意を示し、圧倒的兵力を持ちながらも戦わずして江戸に逃げ帰りました。幕府側の守旧派が悲憤慷慨しても、「ここは幕府がどうのこうのという小さいことではない。これは国家全体の問題である」と、慶喜は薩長の挑発に乗りませんし、アヘン戦争の二の舞にならぬようにと、フランスの援助介入を拒絶しました。同じく幕府側勝海舟も「幕府側と倒幕派が国内戦争をしては海外の介入を招き、日本国のためにならない」と、倒幕側の薩摩に協力的なイギリス公使パークスに幕府側の意のあるところを理解させています。このような世界状況の中の日本を大局的判断して国内戦争を抑止し、日本国の分裂は免れましたが、これと引き換えに己を抑えた幕府は瓦解しました。

勝利を譲られた明治政府は要職を薩長土肥で固め、世界に伍していくべく富国強兵策をとっていきました。その陰で、職を失い、土地を追われた多くの旧幕府人は、自立の道を模索することしかありません。活路を見いだそうと開墾事業、教育界、医療界、芸術界、財界など新規事業にたずさわっていくこととなります。それが日本国全体の向上につながりました。いわば旧幕府人が日本文化を盛隆させたようなものです。だから新紙幣の顔ぶれを見ると旧幕府の人々を連想してしまうのも無理がないでしょう。それが今回も又「文化人」の括りで、旧幕府側の人々の大局的心意と苦勞とを認め、日本をバランスよく一体化していくことを示したと思えます。それゆえ「幕末・明治は更に遠くなりなけり」と思うのです。

五月からは令和の御代、我々はどんな場面に出会うのでしょうか、楽しみは膨らみます。我が第2内科の発展もまた楽しみです。(H31.4.28.)



平成より令和へ（雑感）

産業医科大学第2内科同門会 名誉顧問
産業医科大学 名誉教授
門司労災病院 名誉院長
黒岩 昭夫

同門会の皆様、ご無沙汰しております。先日、同門会の原稿依頼がまいりました。早いもので、もう一年がたった。この一年どうだったのだろうと考えました。私にとってはお陰さまで大病をわずらうこともなく、相変わらず低い山をぼつぼつと歩いています。あまり変わりばえしないで、よくいえば大過なくすごしたということです。

この五月に元号が平成より令和に代わり、社会もいろいろと変化して行くと思われます。手元にある万葉集の本2冊を持ち出して、その出典の部位を探し出して喜んでいました。この和歌が生まれたのが太宰府だということで、歌会のあったといわれる坂本八幡宮を4月の始めに訪ねました。神社は太宰府政庁の隣にあります。休日は混雑するだろうと考え、5日（金曜日）に行きました。いつもは誰もいない小さなお社ですが、訪問者も結構多く地元の人が説明書を配付したりいろいろと世話していました。（日曜日のテレビに大勢の人が訪れている場面がでていました）太宰府は学問の神様だけでなく、商売もなかなか熱心な神様になったように思われた次第です。私はぼけ防止を願ってお賽銭を納めました。4月の末にもう一度訪ねました。さらに賑やかになっていました。

時代は良きにつけ、悪きにつけ次第に変化して行きます。若い医師諸兄姉は希望をもって一層活発に活躍すること、可能性を押し進めることを心より期待しております。老人は過去のことをいろいろと思い出して悩んだり反省したりすることも多いものです。現役の人たちはそれを乗り越えて発展して下さい。

自分のことをさしおいて、これからのことを言えば鬼が笑いましょうが、私には2人の兄、1人の姉と1人の弟がいますので、兄弟でもう少し余生を愉しみたいと思っております。今年、10連休ではじまる令和元年が同門の皆様にとって有意義な年になることを、心より期待しております。

平成31年4月23日